

津山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本社会論	
科目基礎情報							
科目番号	0099		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	「憲法への招待 新版」 渋谷秀樹 岩波書店 , 六法全書						
担当教員	大田 肇						
到達目標							
学習目的：家の役割を理解していく中で，日本社会の有り様を把握していくとともに，それらの国家が創り出す国際関係についても論究していく。							
到達目標 ◎ 1 日本国憲法の特殊性を理解できる。 ◎ 2 日本国憲法の人権保障について理解できる。 ◎ 3 日本国憲法の統治機構について理解できる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	日本国憲法の特殊性について、歴史的、比較法的に理解できる。		日本国憲法の特殊性について、具体的に理解できる。		日本国憲法の特殊性の基礎を理解できる。		左記に達していない。
評価項目2	日本国憲法の人権保障について、歴史的、比較法的に理解できる。		日本国憲法の人権保障について、具体的に理解できる。		日本国憲法の人権保障の基礎を理解できる。		左記に達していない。
評価項目3	日本国憲法の統治機構について、歴史的、比較法的に理解できる。		日本国憲法の統治機構について、具体的に理解できる。		日本国憲法の統治機構の基礎を理解できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：国際コミュニケーション 必修・履修・履修選択・選択の別：選択 基礎となる学問分野：法学／政治学／経済学 学科学習目標との関連：本科目は学習教育目標⑤「グローバルな視点と社会性の養成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（F）コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力の育成，F－2：発表や討論をとおして，相手の考え方や知識の相互理解ができること」である。 授業の概要：国際化の時代において，国家の役割は相対的に低下しつつあるとは言え，それに代わる権力組織は存在しない。その働きを，憲法という視点から探っていく。						
授業の進め方・方法	授業の方法：テキスト・資料などを適量に分けて報告者に割り振っていく。報告者の報告をもとに，質疑応答を展開する。 成績評価方法： ・ 1 0 0 % = 前期末試験 6 0 % + レポート 4 0 % (報告を含む)						
注意点	履修上の注意： 履修のアドバイス：「黙っていても，技術で喰っていける」時代は過ぎ去った。最低限の表現能力は，身につけよう。 基礎科目：政治経済（2年） 関連科目：異文化社会論Ⅱ（4年） 受講上のアドバイス：「沈黙は金」ではなく，「沈黙は成績不可への道」と思って，積極的に発言しよう。そのために，次週報告範囲の事前レポートをしっかりと作成してこよう。そのために，教科書を事前にしっかりと読もう。そうした「予習」をやりやすくするために，比較的わかりやすい論理の本を教科書に選んだ。こうして，君の文章読解力も鍛えられるという高専最終学年にふさわしいオールラウンド型の講義となる。 遅刻が多くなった場合は，その時点で，指示を出します。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			講義の流れ	
		2週	法学入門（1）			法とは何か	
		3週	法学入門（2）			法の分類等	
		4週	人権			人権の内容	
		5週	同上			同上	
		6週	同上			同上	
		7週	同上			同上	
		8週	日本の統治構造			3 権の関係	
	2ndQ	9週	同上			同上	
		10週	日本における裁判所の役割			裁判所の役割とその限界	
		11週	判例研究 平和主義			判決の理解	
		12週	安全保障と平和主義			安全保障と平和主義の関係	
		13週	技術の軍民共用			軍民共用の問題点	
		14週	サイバーセキュリティ			サイバーセキュリティの内容と課題	

		15週	前期末試験				
		16週	前期末試験の返却と解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	2		
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	2		
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2		
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20